シヤリエー教授の滿65歳祝賀記念論文集を見て

山本一清

スエーデン國の天文學界の耆宿であり，且つ同國 Lund 天文臺長 C.V.L. Charlier 教授が昨1927年四月1日を以つて滿65歳の齡を迎へたので其の弟子たちが祝賀記念論文集を作つて老教授に捧げたことは，近頃學界の美談として既に我が「天界」第78號第386頁にも一寸報じた所であるが，最近此の論文集を手に入れたので，取つて見るこ，之れは Lund 天文臺の出版物である Meddelanden fran Lunds Astronomiska Observatorium の第2輯第5卷の特輯こいふ形式で，Lund 市の Hakan Ohlssons Boktryskeri 書店から出版されたものであつて，中に含まれてある論文は總計15種，さすがに Charlier 教授其の人が統計學こ天文學こ二途かけた人であるから，此の15種の論文にも多方面がある．

卷頭に序文こして，次の如き短かい英文が掲げられてある．

「Carl Vilhelm Ludvig Charlier 教授は1927年四月1日を以つて第66歳に入られ，Lund 王立大學の法規の示す所によつて，天文學教授及び天文臺長の職を退かれるに當り，吾々其の弟子ならびに同勞者（中には20ケ年以上の同勞者もある）は，老教授より受けた優れたる教訓，及び，特に深き感激こ偉大に滿ちた其の學術研究事蹟に對し深甚なる祝賀の意を表するものである．

吾々が Charlier 教授に知られて以來，常に，教授は一般に只上級の學生にのみ講義をせられ，初級のものゝ講義は其の助手たちに任せられたが，其のため，教授が其の講義の題目こして，多くは教授自身が研究中のものゝ批判を主に選ばれたのであつて，之れにより，學生は研究の方法や細目について親しく教授に導かれたのみならず，又，此等の研究の進路に横たはる幾つかの困難を如何に打ち破るかこいふ方法をも教へ

られたのであつて，教授獨特の寛量を以つて，いろいろ有價値なる未決の問題のある點を指し示され，各人獨自の研究のため學生たちに問題を與へて奬勵されたものである．尙ほ，大學天文臺にある種々の近代的設備や豐富なる研究材料により，又，Meddelanden の發刊によつて，學生たちは各自の研究に多くの好機會を與へられ，演習 (seminar) の時間には研究員や學生たちが集つて夫れ夫れ自己の問題と共に，他人の論文をも論議した．

此の如く，Charlier 教授は自ら熱心にして捲まざる學究者の模範を示すと共に，其の學生の進歩に絕えず深切な指導を與へて，各人の研究に最善の訓練と奬勵とを與へた．而して，學生は遂に同勞者となり，同勞者は親友となつた．

Charlier 教授の第65回誕辰を祝するために，吾々は各々の責任を以つて適當な題目を選び，其れによつて作り上げた此等の論文をこゝに集めて，教授に獻ずるのが最上の方法であると信ずる」．

今，各論文の筆者と論文題とを擧げると，

(1) W. Gyllenberg, 恒星の固有運動の研究により絕對光度の散開性を決定する一方法．
(2) W. Gyllenberg, 固有運動の分布の研究により巨星と矮星の統計的分離をなす一つの試み．
(3) S. D. Wicksell, 兩性の比率と親の年齡，子供の性と親の年齡との關係といふ古い問題の一新研究．
(4) H. G. Block, 太陽コロナの積分方程式について．
(5) Rich A. Robb, 固有運動と視線速度とからB型の小區分について絕對光度の決定．
(6) C. F. Lundahl, ニウトンの法則を基礎とする統計力學への寄與，衝突函數の解析的展開．
(7) K.G. Malmquist, 空間に於ける星の配列の決定法．
(8) Nils P. Anibolt. 110個の變光星の子午線觀測．
(9) Nils H.Rasmuson, さそりセンタウル星群の新研究
(10) John Ohlsson, 恒星力學の概評及び力學的平衡にある定常恒星系の研究．
(11) A. Corlin, 地方的星團の中心方向及び其の反對の方向に向ふ星の運動の研究．
(12) L. Hufnagel. 9等級乃至14等級の恒星の空間的速度分布について．
(13) Brynolf Fänge, 種々の色指數を有する恒星の絕對光輝．
(14) F. J. Linders, スエーデン國に於ける Kopfmasse の知識．
(15) C. F. Lundahl, 相互無關係の觀測の場合最小二乘法に置ける重みの方程式の形について．